



高齢者に寄り添うケア

撮影・橋本

その人らしく

「こんにちは。昨日はよく眠れましたか」。笑顔でお年寄りに声をかけていく。岩瀬さんが働くのは、介護が必要な利用者に食事や入浴サービスなどを提供する小規模多機能型居宅介護施設「ユアハウス弥生」（東京都文京区）。短期間、宿泊できる施設も備え、区内に住む40～90歳代の29人が利用している。

介護福祉士の仕事は、食事や入浴の介助のほか、利用者の自宅訪問や宿泊者へのケアなどだ。

しかし、岩瀬さんが最も大切に考えているのは、「その人らしい生活」を支えること。「散歩したい」「故郷に帰りたい」といった希望に沿うほか、「好きな歌舞伎に行きたい」という人がいれば、希望者を募ってみんなで観劇に行く。岩瀬さんは「利用者の希望を引き出し、かなえるためには、どうしたらよいか、スタッフで考えます」と話す。

高齢や病気で日常生活が不自由になった利用者の食事の手助けをする

ことも。たとえ箸が使えなくなっても、スプーンに換えたり、おにぎりにしたりすることで、いつもと同じ食事が出来るよう工夫を凝らす。

「普段通りに過ごすことで、心が穏やかになり、笑顔になってくれるのがうれしい」とやりがいを語る。

超高齢社会を迎え、介護の重要性は今後も高まることが予想される。岩瀬さんは「利用者の思いを大事にしながら、知識や技術などを高めていきたい」と情熱を燃やしている。

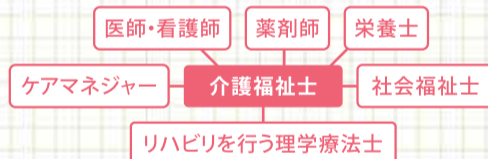
岩瀬さんの1日

- 8:00 出社、引き継ぎ
- 8:30 自転車に乗り、利用者の自宅を訪問。服薬・水分摂取をすすめ、体調を確認しながら信頼関係を築く
- 9:00 通って来る利用者を歩いて迎えに行き、一緒に事業所へ戻る
- 10:00 入浴の介助
- 12:00 食事の介助
- 13:00 休憩
- 14:00 通院の付き添い
- 15:00 外出希望者の買い物に同行
- 17:00 利用者の帰宅に同行
- 18:00 終礼、退社

介護福祉士になるには

2017年度以降、原則として国家試験を受験し、合格しなければ介護福祉士の資格が得られない。受験資格は、介護福祉士を養成する大学などを卒業するほか、3年以上の実務経験を積むなどすると得られる。

●関連する業種



支える気持ち

利用者は、介護者の支援を必要としている。ただ、「自分でできる」という実感をもってもらいたいので、その人が望む日常生活を送れるよう、体と心にそと寄り添うことが重要。



チームワーク

日頃から利用者が何に悩んでいるか話を聞き、医師や看護師を始め、様々な専門職と相談しながら、その人に合ったケアを行う。連携することで解決策が浮かぶことも多いので、チームの和は大切だ。



傾聴力

介護は、悔いのない人生を送れるよう、共に生きがいを探しながら歩む仕事。昔、得意だったことや趣味などを本人から根気よく話を聞き出して、日々の生活を豊かに過ごしてもらう。



MESSAGE



- 1988年 広島県生まれ
- 2011年 京都大学総合人間学部卒業
介護老人保健施設に勤務
- 2014年 介護福祉士資格を取得
- 2015年 結婚を機に、「ユアハウス弥生」に転職

興味あること 大事に

福祉の仕事に興味を持ったのは大学3年の冬。長く入院していた祖父が亡くなった時、介護や福祉について調べたのがきっかけだ。

大学では、アフリカや東南アジアなどの国際問題に関心があったが、福祉の世界に出会い、「これがやりたい仕事だ」とピンときたという。それからは、高齢者施設でアルバイトしたり、ホームヘルパーの資格を取得したり、福祉の道へ一直線だった。

将来に悩む中高生には「なりた職業が決まる時期は人それぞれ。焦らずにまずは自分が好きな勉強や興味があることを大事にしてほしい」とメッセージをくれた。

私の成功談

ナースコール 鳴らす理由は

最初に勤務した施設で、頻繁にナースコールを鳴らす女性があった。先輩たちは「体は動くのだから、自分でできるように促そう」と話していたが、本人や家族に聞いたところ、話し好きな性格だと分かった。ナースコールは、介助ではなく、話し相手を求めているのだと気づき、本当の望みを把握することの大切さを学んだ。

マストアイテム

読み返し 初心に戻る

なぜ自分が介護福祉士を目指したのか、どんな介護を目指すのか、見失いそうな時に読み返して初心を取り戻す。特に医師で作家の鎌田 実さんの著書「がんばらない」はバイブル。感動した所にはふせんをはっている。

